

科 目 名	プレゼミナールⅣ	備 考
単 位 数	各 2 単位	プレゼミナールⅢ（基礎編）の履修を前提とする

金 基 弘

音のプロフェッショナルに求められる音響学の基本と音に対する感性（発展編）

1. 講義目標・講義内容等

春学期のプレゼミナールⅢ（基礎編）をベースとし、プレゼミナールⅣではより実際の場面に即した「音」の感性を養成することを目的に、ICTを駆使した講義支援システム「Moodle（ムードル）」を使用して授業を行っている。受講者は、音の感性を養成する教育プログラムである「聴能形成（Technical Listening Training）」と、広い意味での音楽教育のための「サウンド・エデュケーション（sound education）」を通して、音に対する感性を磨くとともに、音に対する世界観が広がり、音が持つ意味や価値を考えることができる。

2. 到達目標

「音」を聴く・感じる・考えることで、「音」に対する感性を音に対する知識と対応づけることができ、映像コンテンツにおけるサウンド・デザインや公共空間における音環境デザインなど、各種の音のデザインに関わる実践の場において、正しい専門用語を用いた円滑なコミュニケーションができることを目標とする。

3. 関連科目

プレゼミナールⅢ、音響制作実習、音楽情報処理演習、サウンドデザイン演習、音響メディア論、サウンドデザイン論

4. テキスト・参考書等

適宜、資料を配布する。

【参】北村音彦、佐々木寛（監修）岩宮眞一郎、大橋心耳（編）：“音の感性を育てる—聴能形成の理論と実際—”，音楽之友社，1996.

【参】日本音響学会（編）金基弘 他多数（著）：“音響キーワードブック”，コロナ社，2016.

【参】岩宮眞一郎（著）：“図解入門 よくわかる最新音響の基礎と応用”，秀和システム，2011.

【参】音の百科事典編集委員会（編）：“音の百科事典”，丸善，2006.

5. 成績評価方法

ゼミへの参加態度（※遅刻はクラス全体に迷惑を及ぼすことを自覚すること）やレポート（50%）、音響キーワードに関連する教育映像の制作課題（50%）により成績を評価する。映像制作課題は、専門用語を理解したうえで上手く伝えられることが良い評価をもらうためには重要である。

6. 授業外における学習方法

指定する書籍をよく読んでおくこと。指示する専門用語の意味を調べておくこと。日常生活の中でよく耳をすませて「音」を聞くこと。

授 業 計 画			
第1回	ガイダンス（「聴能形成」とは）	第9回	サウンド・エデュケーションⅠ
第2回	周波数特性の山づけ	第10回	サウンド・エデュケーションⅡ
第3回	LCF、HCFの遮断周波数	第11回	サウンド・エデュケーションⅢ
第4回	音楽におけるミックス・バランス	第12回	音響教育用映像制作Ⅰ—企画・構成—
第5回	残響時間	第13回	音響教育用映像制作Ⅱ—撮影—
第6回	量子化ビット数	第14回	音響教育用映像制作Ⅲ—編集・仕上げ—
第7回	AM音の変調周波数	第15回	講評及びまとめ
第8回	FM音の変調周波数		